



No.484

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

一般社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2018 7-8 月号

【平成30年度定期総会・会員総会報告】

理事長挨拶

前理事長挨拶

会長挨拶

【新聞記事コーナー】

中日新聞、中部経済新聞

【随筆】

仁科 健 教授

名工大在席47年を振り返る“最終漫談”を開催

【研究者紹介】

画像信号処理技術を駆使した高精細画像改質と
医療画像処理などへの応用

JST「イノベーション・ジャパン2018—大学見本市」
大学等シーズ展示及び大学組織展示のご案内

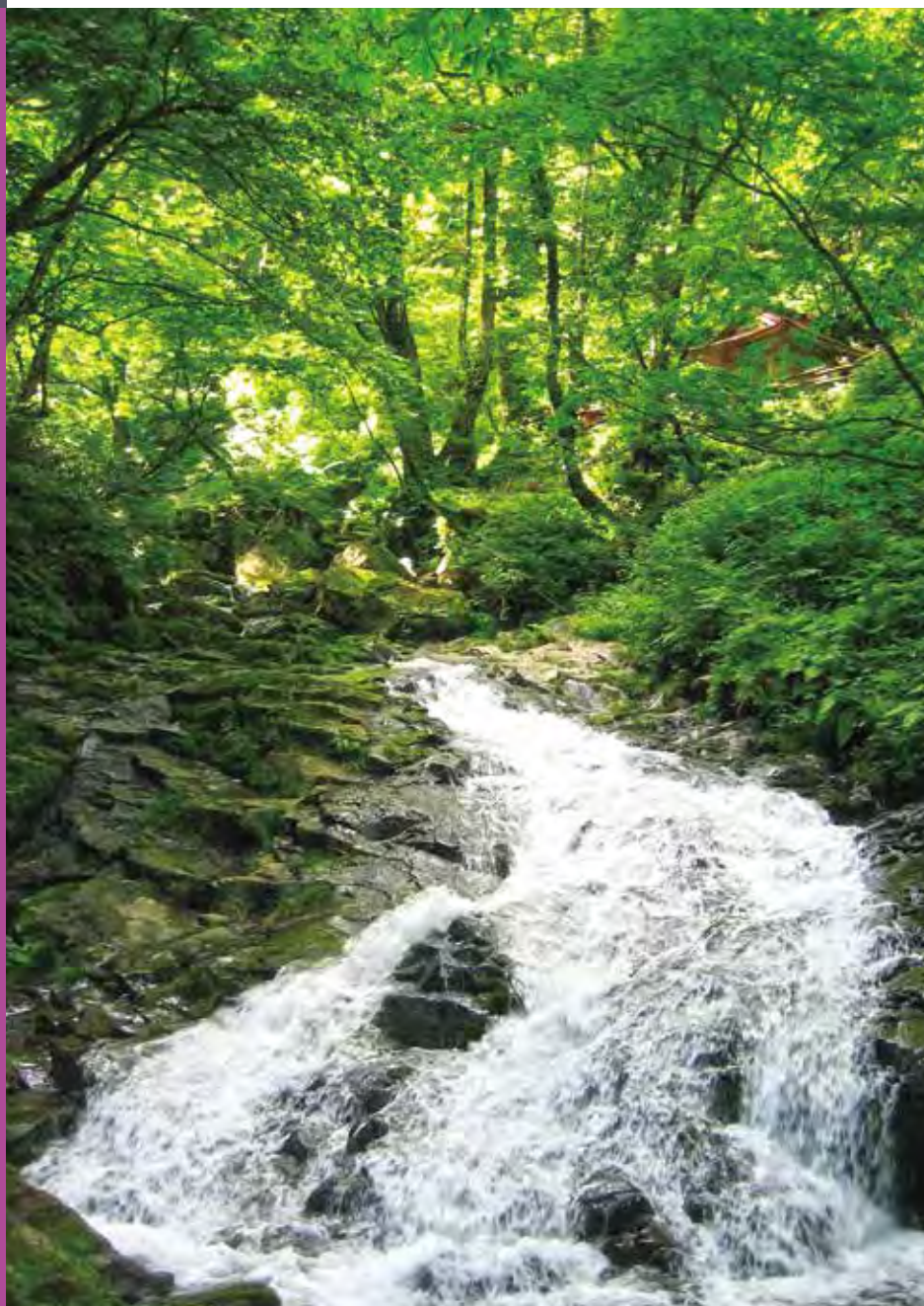
【ホットライン】

2018ロボコン応援記

平成30年度 名古屋工業会給付型奨学金授与式

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース



平成30年度 名古屋支部 “見学研修会”

平成30年度名古屋支部の見学研修会を次の通り開催致します。
会員の皆様（家族同伴可）はふるってご参加下さい。

1. 日 時：平成30年10月20日（土） 8:00栄テレビ塔北 観光バス駐車場に集合
2. 行 先：銅鐸博物館、びわ湖温泉、近江八幡水郷巡り 日帰り
3. 行 程：栄テレビ塔北駐車場(8:00)
 - 銅鐸博物館【見学】（10:30～11:00）
 - びわ湖温泉【昼食・入浴可】（12:00～14:00）
 - ラコリーナ近江八幡【買物】（14:50～15:20）
 - 近江八幡水郷巡り（モーター船）【乗船】（15:30～16:20）
 - 栄オアシス21付近(18:30頃)
4. 会 費：1名 6,000円（同伴家族も同じ。小学生以下は半額。）
5. 募集人数：96名（先着順）
6. 申 込 先：下記の単科会連絡幹事までご連絡いただくか、直接支部連絡先へ。
締切は9月16日（日）

支部連絡先：米谷 昭彦 Email：yoneya@nitech.ac.jp TEL&FAX兼：052-735-5380

木村 高志 Email：t-kimura@nitech.ac.jp TEL：052-735-5381

（名古屋工業大学物理工学科内 名古屋工業会名古屋支部庶務）

各単科会連絡幹事等

C E 会 遠藤 浩二（C61）TEL090-1108-5368

光鯪会 宇佐美智伯（A⑥）TEL052-704-6137

巴 会 大西 一（M49）TEL080-5100-2920

電影会 三宅 正人（E60）TEL090-3581-4472

双友会 伊藤 哲夫（W45）TEL052-718-0237

緑 会 村瀬 由明（D53）TEL052-805-0673

名窯会 曾根 茂実（Y62）TEL0587-66-6800

名晶会 栗田 典明（K60）TEL052-735-5297

計測会 米谷 昭彦（F60）TEL052-735-5380

経友会 仁科 健（B50）TEL052-891-5852

情友会 石橋 豊（J56）TEL052-735-5440

各単科会幹事様はメールにて参加者情報をご連絡いただけますと幸いです。

表紙写真説明

「涼を楽しむ」（岐阜県・阿弥陀ヶ地内）

撮影者 工業会事務局

平成30年度 定期総会・会員総会 報告

一般社団法人名古屋工業会の平成30年度定期総会、理事会並びに会員総会が5月19日（土）、名古屋工業大学において開催された。

定期総会には、理事長、副理事長、常務理事、理事、代議員などが出席し、内藤常務理事の司会で、水嶋理事長が開会挨拶の後、議長となり、議事録署名人を指名した。内藤常務理事が報告事項を説明した後、平成29年度事業報告及び収支決算案、平成30年度事業計画及び収支予算案、理事の選任について審議され、各議案との原案どおり議決され、終了した。

その後の理事会には、理事、監事が出席し、水嶋理事長が開会を宣言、榎尾副理事長が議長となり、新理事長の選任と相談役の就任について審議し、新理事長に加川純一氏を選任、相談役に水嶋敏夫氏の就任が議決され、終了した。

続いて開催された会員総会では、冒頭、平成29年度にご逝去された会員物故者36名のご冥福を祈り、出席者全員で一分間の黙祷を捧げた。

会員総会は、内藤常務理事が司会となり、加川理事長の挨拶、水嶋前理事長の退任あいさつ、鵜飼学長の会長挨拶の後、定期総会並びに

理事会で諮られ承認された議決事項が報告された。次に、総会行事として、理事長から叙位叙勲等表彰者に記念品、母校退職教職員に感謝状等、会員で卒業満70・60・50・40周年を迎えられた方への顕彰、退任役員への感謝状と記念品が贈呈された。

続いて、犬塚正憲（D48）緑会幹事長の司会で、学校法人西大和学園会長・大和大学学長 田野瀬良太郎氏（D45）より「政治と教育の半生」と題して特別講演をいただいた。

会場を学生会館に移して開催された懇親パーティーでは、岡崎副理事長の司会で橋本卒業生連携室長の挨拶の後、大鹿副理事長の乾杯の発声で始まり、名古屋工業大学学生オーケストラによる演奏のなか、杯を交わしながら和やかに歓談、旧交を温めた。また、満60・50・40周年を迎えられました方からお一人ずつ簡単な自己紹介と近況報告があり、参加者 全員が大いに盛り上がった。

最後に、恒例となった学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌い、榎尾副理事長の閉会の辞で盛会裡に閉会した。

平成30年度 定期総会 次第

1. 議 事

（決議事項）

- 第1号議案 平成29年度事業報告及び収支決算案
- 第2号議案 平成30年度事業計画及び収支予算案
- 第3号議案 理事の選任について

（報告事項）

- 第4号議案 その他

平成30年度 会員総会 次第

- 1. 理事長挨拶 一般社団法人名古屋工業会理事長

- 2. 会長挨拶 国立大学法人名古屋工業大学長

- 3. 報告事項 定期総会での決議事項報告

- 4. 行 事 イ 叙勲受章者に記念品贈呈（5名）

ロ 名古屋工業大学定年退職職員への感謝状等贈呈（16名）

ハ 名古屋工業大学卒満70.60.50.40周年の会員への顕彰（401名）

ニ 特別講演

講師：講師：田野瀬良太郎氏（D45）学校法人西大和学園会長・大和大学学長

演題：「政治と教育の半生」

- 5. 懇親パーティー

理事長挨拶

一般社団法人名古屋工業会

理事長 加川 純一 (K49)

先ほどの理事会にて理事長に就任しました加川でございます。

名古屋工業会は創設100年以上の歴史を有する全学同窓会組織でありその大役を仰せつかり大変光栄でもあり、緊張しております。就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

名古屋工業会は「大学支援」と「会員相互の親睦」という2本の柱で取り組んでおります。私としてもその基本方針は継続していく考えであります。

「母校がさらに輝きを増す大学として存在すること」が我々卒業生の誇りになります。先生方や学生諸君、そして勿論卒業生の皆さんがそれぞれの分野でご活躍されているのをみるにつけ嬉しく思うものです。そのような母校になるよう全学同窓会としていろいろな役割を果たすべく取り組んで参りますので皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

先ほどの定期総会にて平成29年度の事業報告及び決算、平成30年度の事業計画が承認されましたが 詳細につきまして後ほど常務理事より報告させていただきます。

私からは大学支援に当り最近の大学の状況について少しお話させていただきます。

最近のトピックスでは この3月に国際学生寮整備事業として、大学の南側に留学生寮が(NITech Cosmo Village) 一部完成しました。今年の9月に残り2棟が完成予定です。そこには女子学生増加に伴う対応として1棟は女子寮となっています。

大学も国際化を推進するためにいろいろな事業を行っていますが、我々工業会としても、国際的に通用する人材育成と大学の国際化を支援するため学生の海外留学・派遣への支援を強力に行っています。

また、大学への産業界への橋渡しとして、「名



古屋工業大学研究協力会」とも連携しながら支援強化していきたいと思っております。大学との協賛事業として今年も10月27日にホームカミングデーを開催いたしますので、皆様におかれまして懐かしき母校の発展した姿を見に来ていただければ幸いです。

さらに、学生支援としては、昨年より始めました名古屋工業会給付型奨学金を継続致します、また、挑戦的課外活動への支援として昨年はソーラーカーや鳥人間コンテストチーム等に奨励金を授与し、今年の学生将棋選手権個人戦で見事優勝された方には理事長表彰をさせていただきました。

あと、就職支援です。現在は多くの方が入学時に終身会員になっていただいておりますが、その会費を納付いただく保護者の方々の最大の関心事は卒業後の就職です。

工業会は今年もOBトップセミナーをはじめ種々のイベントを企画し学生の就職支援を行っていききたいと思います。

一方の柱は「会員相互の親睦」です。

現在、名古屋工業会は全国に22支部あり会員数は14,000名を超えました。また毎年新入学生の入会がありますので会員は急速に増加していくことが予想されます。ただ卒業生をはじめ工業会対象者は64,000名ほどおみえのようですので、未加入の方をご存知でしたら是非入会の勧誘をお願いします。さらなる工業会の活性化のため工業会としては年齢を超えた会員相互の親睦や情報交換ができるような環境作りとして会員証の優待サービスの充実や卒業生名簿の整備・保守を名古屋工業大学の組織である卒業生

連携室と協力し合い進めていきたいと思ひます。女子学生も増えOG会「鶴桜会」も結成されました。各支部の活動にも参加できるようになれぱと思ひます。

各支部の問題として同窓会活動への若手の参加の減少が課題でもあるようです。支部運営の問題については各支部総会へ本部から参加し事情をお伺ひし、支部長会での意見聴収などを通じ皆さんのご意見や提案をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

以上のように「大学支援」と「会員相互の親睦」を2本柱で活動していきますが、特に今年は工業会が今後とも永続的に活動していくための財政基盤の安定化の中長期計画の策定と工業会館の耐震化への対応の方向性を検討せねばなりません。

工業会収入につきましては先ほど述べましたように新入学時の入会によりある程度は見込めるようになりましたが、現在の入会比率を維持するためのサービスの充実や非会員学生や非会員卒業生の勧誘を進めたいと思ひます。支出に関しては大学支援と会員サービスの充実のバランスを考えながら、一方工業会館の耐震化対応を計画的に進めていかねばなりません。

皆様からの工業会活動の活性化に向けた積極的な提案をお願いいたします。

最後になりますが、本日は会員総会の後、名工大のOBで西大和学園の創始者で大和大学学長であります田野瀬良太郎様の特別講演、その後懇親パーティーを企画しております。時間の許す限り親睦を深めていただき、楽しい時間を過ごしていただきたいと思ひます。

本日はありがとうございました。



会員総会風景



懇親パーティー（学歌を斉唱）

会員各位

平成30年5月19日

一般社団法人 名古屋工業会
理事長 水嶋 敏夫

平成30年度定期総会及び決議ご通知

平成30年5月19日(土)開催の一般社団法人名古屋工業会定期総会において、議案全てが議決されましたのでご通知申し上げます。

前理事長挨拶

一般社団法人名古屋工業会
前理事長 水嶋 敏夫 (M42)

ご紹介いただきました水嶋でございます。

会員総会に先立ち開催されました理事会において、私の理事長退任をご承認頂きました。

思えば平成26年4月、前任の篠田さんから理事長のバトンを引き継ぎ、母校に対する恩返しと、私自身が会社生活の中で直接指導を受けた大先輩への恩返しができるチャンスと捉え、名古屋工業会の活動を推進して参りましたが、全国にみえます会員の皆様、工業会役員ならびに事務局職員の皆様、そして大学関係者の皆様の温かいご支援とご協力のお陰をもちまして、職責を果たすことができました。

4年間に亘り本当にありがとうございました。

工業会は、平成25年には法人法改正に伴い一般社団法人となりましたが、工業会活動の2つの柱である「大学支援」と「会員の相互親睦」をいかに効率的、効果的に進めたら良いか、また永続的な活動にするか、役員の方々とともに協議しながら進めて参りました。

大学の研究活動はもちろん、学生の課外活動も積極的に支援するほか、三年前には母校の創立100周年を記念して、大学との共同開催事業「ホームカミングデー」を立ち上げましたが、全国から多くの卒業生が、久し振りに母校に足を運び旧交を温めるのに、良い契機になったのではないかと思います。

また、長い歴史の中で初めてのカード式の会員証を発行したり、美術館やホテル等の会員優待制度を拡げることで、会員の帰属意識とうれしさを大きくする企画を実行する一方で、全国各支部での総会や行事にお邪魔して多くの会員の皆様と交流できた事は、私自身にとっても貴



重な経験であり、今後の大きな財産となりました。

この度、私の後任として、加川さんという素晴らしい方が理事長を引受けて下さいました。

加川さんは、元・名古屋支部長を務められ、現在も工業会理事として活躍をされてみえ、工業会の将来を考えたとき、とても心強く感じています。

工業会は新体制のもとで事業展開されていく訳ですが、鶴飼学長がリーダーシップを発揮される名古屋工業大学の変革と更なる発展を支え、「耀く、ますます耀く母校を願って」という我々会員全員の願いが達成されるものと信じております。

最後になりましたが、会員の皆様方のご健勝を祈念致しまして、退任のご挨拶と致します。

ありがとうございました。



理事長退任へ、感謝状と記念品贈呈

会 長 挨 拶

国立大学法人名古屋工業大学長
一般社団法人名古屋工業会会長
鵜飼 裕之 (F52)

名古屋工業会会員総会の開催にあたり、母校、名古屋工業大学を代表して一言ご挨拶を申し上げます。名古屋工業会会員の皆様には、学生の修学、課外活動、海外派遣事業などの教育活動、ならびに教員の研究活動などにご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。また、理事長をはじめ名古屋工業会役員の皆様には、常日頃より卒業生連携室、基金運営などの活動を通じて本学の事業運営を支えて頂いており、この場を借りて改めて感謝申し上げます。とくに、水嶋様には本日をもって理事長を退任されることになり、長年にわたるご尽力に深く敬意を表しますとともに、母校を代表して、心より感謝申し上げます。水嶋前理事長とは緊密な関係の下で工業会活動をさせて頂いてまいりました。とくに、一緒に全国各地の工業会支部総会に出席するなど楽しい思い出も数多く、誠に名残惜しい気持ちでございます。改めてこれまで精力的に活躍されましたことに対して、心よりご苦勞様でございました、と申し上げたいと存じます。そして、加川新理事長におかれましては、これまでも理事として母校の活動にもご尽力頂いておりましたが、これからは理事長として工業会を強力に牽引されるとともに、名古屋工業大学との連携をより密にしながら工業会ならびに母校の発展にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、折角の機会ですので、この1年間を振り返って本学の動きと最近急激に進む大学教育をめぐる政策動向についてご紹介させていただきます。

教育改革の柱として平成28年度にスタートした新教育システムは今年で3年目を迎えます。社会、産業界からの多様な人材像の要請に応えるために導入した複線的な教育課程の下、学生は各々自分に合ったカリキュラムを選びながら意欲的に勉学に取り組んでいます。他校に先駆けて設置した6年一貫の創造工学教育課程につ



いては、文部科学省に設置された「大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会」において6年一貫制度の導入、工学部のなかの学科の壁を超えた教育課程の設置、企業型教員の活用などの制度改革が進んでいます。これらは、まさに本学が先導的に実践してきた内容です。また、本学では、実績のある工場長養成塾、今年3月に名古屋市の委託を受けて本学に設置したセンターでのロボット・IoT導入やシステムインテグレータを育成するプログラムなど、社会人を対象とした教育プログラムを積極的に推進しています。こうした社会人を対象としたリカレント教育については、人生100年時代構想会議において、将来の大学機能として重要となっていくことが打ち出されています。このように、名工大がめざす新たな工学教育の構築に向けた改革には追い風が吹いています。名工大が工学系単科大学のメリットを最大限に活かし、工学教育のフロントランナーであり続けるために、全学一体となって取り組んでいます。

国内外の大学・研究機関、産業界、行政、金融界とのネットワークを介して「人」「知」「技術」をつなぎ、学術・技術で新しい価値を創造し世界に発信する拠点。名工大がめざすのは、このような「工学のイノベーションハブ」です。昨年、従前の産学官連携センターと大型設備基盤センターを統一化、拡大的に改組して産学官金連携機構を整備しました。名工大の有する知と設備のリソースを最大限に活用しながら金融界とも一体となって、持続的な地域振興とわが国の産業競争力強化への貢献を組織的に推進する、産学官連携に実績のある名工大ならではの機構です。また、今年4月にはAI・IoTなどICTを中核として 産業界のあらゆるAI導入への期待に

応える「NITech AI研究センター」を設置しました。さらに、先進的なレーザー加工や塑性加工技術、IoTの導入など生産技術で地域の製造業を支える「先進生産技術研究センター」も5月に設立しました。このように産業界と一体となって「活きた問題」を発掘し、「活きた研究」として学問の根を深く下ろす、という本学の精神に沿った産学連携研究を加速しています。おかげにより昨年度の本学の産学連携研究による外部資金獲得額は10%近くの伸びを示すことができました。一方、研究特区である材料科学・情報科学フロンティア研究院では、常時30名程度の海外著名大学等からの外国人教員が所属し教育研究活動と一緒にを行っています。さらに、3月にはオーストラリアのウーロンゴン大学と共同で博士の学位を授与する情報学専攻を設置しました。ドイツのFAUとは組織的に共同して研究教育を行う二国間共同事業の提案を準備しています。こうした活動により、国内外の研究者間の交流をさらに促進し、国際的共同研究の展開、ひいては国際共著論文の増加につながっています。教員ひとり一人の高い研究力を活かしてチームとしてまとめ、世界へ、そして産業界へ展開する。国際連携と産学官金連携を駆動源として持続的にイノベーションを創出する研究体制を充実しています。

わが国の科学技術力の向上にとって、工学分野で活躍する女性と優秀な外国人技術者は欠くことのできない人財であり、工学系大学にとってその育成は重要なミッションのひとつです。今年4月の学部入学生における女子学生比率は19.9%まで増え、また、外国人留学生は350名程度、地域もアジアから欧州、アフリカなどへ拡がり、4月からはモンゴルとのツイニングプログラムもスタートしました。今年3月には、外国人留学生と日本人学生が同居する国際学生寮の一期工事分が竣工し、女子学生専用スペースも設けています。昨年、JSTの「ダイバーシティ推進事業」に採択されたことを機に、男女共同参画推進センターを拡大的に再編してダイバーシティ推進センターを設立しました。女性研究者の活躍推進、外国人研究者・企業型教員の積極的な登用など多様な人材を集めることによってキャンパスのダイバーシティ化をより一層進

めています。そして、多様な人々が共生し、互いに能力を高め合うことで大学に活力を生み、新たな価値を創造するダイバーシティ・インクルージョンをめざしています。

さて、昨今、総合科学技術イノベーション会議、人生100年時代構想会議、未来投資会議、経済財政諮問会議など様々な首相主導の政策会議のなかで、大学改革の必要性が指摘され矢継ぎ早に政策が打ち出されています。また、中央教育審議会では2040年の高等教育の将来像も議論されています。高等教育無償化などはその最たるものです。こうした高等教育政策の急激な変化は国立大学にとっては大きな外圧となって作用し、大学経営は混乱しています。中でも、少子化と大学の国際的研究競争力の低下などを背景として、国公立の枠を超えた大学の統合再編が制度改革として検討されています。近く国立大学法人法の改正により一法人複数大学が可能となります。名大と岐阜大の経営統合の話はその流れのなかで出てきたもので、統合により総合大学としての規模の拡大と経営の効率化を図るのが主体たる目的です。突然、メディアで報道され、皆様にもご心配をおかけしております。皆様ご承知のように、昭和24年新制大学として再スタートを切るときに、名工大は名大との合併ではなく、旧帝大工学部とは異なる方針の下、産学連携を主体とした実践的な教育研究をめざして独自の道を歩むことを選択し、工学系大学としてこれまで実績を築いてきました。そして、今また、名工大はこの伝統を引き継ぎながらも工学を中核に置く新たな大学像をめざして様々な改革を進めています。したがって、名大との経営統合に関わる協議には参加しないことを表明しています。皆様にもご理解を賜りますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

名古屋工業大学は、教育と研究の両輪を改革によってさらに勢いよく回転させ、工学系大学としての独自の進化をめざしてグローバルステージへと踏み出してまいります。皆様のより一層のご理解、ご支援をお願いして私のご挨拶とさせていただきます。

平成30年度 役員名簿

理 事(9)	加川純一	K49	大鹿秀正	F47
	樞尾恒次	C48	岡崎格郎	A46
	内藤克己	A43	森 秀樹	D52
	○ 仁科 健	B50	森川民雄	W45
	川村信之	E53		
監 事(2)	水谷尚美	D42	安藤正晴	B43
相談役(6)	藤原俊朗	K31	牛込 進	Y33
	篠田陽史	M33	二杵幸夫	K39
	木越正司	C44	○ 水嶋敏夫	M42
参 与(10)	宇佐美貞夫	F40	北村健治	B40
	加藤作次	C40	河辺 彰	K40
	伊藤要蔵	B42	張田吉昭	M43
	北村 正	Es48	楠田修三	A50
	阿部完二	D41	清水益文	F44
顧 問(6)	河本毅一	C32	小田征一郎	E36
	横田章宏	D33	飯田秀郎	W33
	日比貞雄	W35	大橋照男	K36
支部長(22)				
北海道	三田村好矩	F41		
東 北	齋藤文伸	A51		
東 京	樞尾恒次	C48		
甲信越	若林俊樹	M56		
静 岡	○ 石塚基一郎	C54		
三 河	中島和彦	Y58		
名古屋	大鹿秀正	F47		
尾 張	音無通男	W41		
岐 阜	元島栖二	D40		
北 陸	馬場清和	M44		
三 重	北川貴志	C50		
大 阪	岡崎格郎	A46		
兵 庫	高瀬陽太郎	C53		
岡 山	野村幸宣	C54		
広 島	○ 大田一夫	C47		
山 口	岸田潤三	C58		
山 陰	糸賀輝穂	C51		
香 川	○ 藤川 智	E52		
徳 島	後藤田啓造	M38		
愛 媛	千羽茂雄	C43		
高 知	山崎健司	A54		
九 州	○ 池崎 徹	M54		

代議員(84)				
北海道(1)	○ 浅井信和	D45		
東 北(1)	佐竹毅彦	Y57		
東 京(7)	松田和繁	C55	○ 井上憲二	E44
	小川一郎	F52	鈴木満雄	D45
	松浦明人	M47	長谷川久巳	A62
	○ 北村明弘	K53		
甲信越(2)	若林俊樹	M56	樋口 順	C48
静 岡(2)	山之上誠	C49	榊原 学	F48
三 河(11)	中島和彦	Y58	吉木 満	W56
	浜田成孝	D⑫	岩田忠三	M59
	沼澤成男	M59	伊藤雅幸	D⑨
	岡本幹浩	M60	松坂勝広	D61
	水野文彦	K63	山本英二	G60
	出崎 亨	K61		
名古屋(23)	水野 貢	C57	兼岩 孝	C54
	藤田素弘	C60	荒金謙一	A45
	井澤知旦	A51	武内博明	Mb①
	伊藤孝行	I⑦	富田庸公	Mb①
	前田佳弘	E⑩	泉地正章	W44
	橋本 忍	Y②	小坂井孝生	K49
	大鑄史男	F49	三宅正人	E60
	森川民雄	W45	犬塚正憲	D48
	緑 静男	D42	大橋聖一	D45
	野々山尚志	Y63	小山敏幸	K61
	守田賢一	F47	鷺見克典	B63
	石橋 豊	J56		
尾 張(6)	中村啓之	A41	服部重夫	Y43
	立石吉行	M44	伊藤美保	D44
	大竹昌志	C54	音無通男	W41
岐 阜(7)	各務剛児	C53	田中清之	A54
	堤 善治	M45	関尾光正	D41
	大久保陽一	Es44	笹島 康	Y39
	兼松克司	K42		
北 陸(2)	黒田 茂	M47	吉岡正盛	B58
三 重(4)	黒木清篤	D52	○ 浅野俊介	Y60
	久世憲志	C52	太田啓雅	E62
大 阪(5)	川越英二	E47	伊藤俊明	M45
	佐野義和	D51	西岡 裕	B50
	田中耕嗣	G52		
兵 庫(2)	高瀬陽太郎	C53	西川芳久	C47
岡 山(2)	虫明正博	K59	小倉俊彦	A58
広 島(1)	菱川躬行	E34		
山 口(1)	川上為夫	W42		
山 陰(1)	土肥美実	C57		
香 川(1)	浅野啓三	F60		
徳 島(1)	福井一博	A46		
愛 媛(1)	浜田裕介	D⑭		
高 知(1)	山内 健	C53		
九 州(2)	○ 池崎 徹	M54	安達高春	A46

○:新任候補者

■退任役員	(理事長)水嶋敏夫	M42	(九州支部長・代議員)喜多村治雄	M40
	(相談役)市川日出男	D32	(代議員/北海道)秋山秀雄	Es43
	(顧問)道家清正	Y30	(代議員/東京)森本晃一	Es43
	(静岡支部長)山之上誠	C49	(代議員/東京)細谷佳弘	K50
	(広島支部長)菱川躬行	E34	(代議員/三重)太田寛之	D57
	(香川支部長)細谷芳照	C53		

平成 29 年度事業報告

組織改革に向けた活動

平成 25 年 4 月 1 日に一般社団法人へ移行し、定款に基づく公益目的事業である大学支援を的確に実施すると共に会員交流・会員優待制度の導入等同窓会としての諸事業を実施した。更に新入生に対する諸納金制度の導入により財政基盤の充実を図った。

1. 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援

国際的に通用する人材育成と大学の国際化を支援するため、名古屋工業大学基金に設立された名古屋工業会基金に資金を交付し、学生の海外留学・派遣に対する支援の充実を図った。

- ① 学生の海外研鑽支援—学生 37 名

(2) 教育研究等支援

- ① 第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師（実務型教員）の派遣を継続して実施した。
- ② 教員の研究力向上に資するため名古屋工業大学基金に設立された名古屋工業会基金に資金を交付し、母校における研究の振興を図った。
- ③ 名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。
- ④ 理事長及び常務理事が名古屋工業大学基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に提言を行った。
- ⑤ 名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。特に大学基金への寄付について、会誌への掲載や工業会の諸行事の機会に協力要請を行なった。
- ⑥ 名古屋工業大学の定年退職教職 17 名に、会員総会で感謝状と記念品を贈呈した。

(3) 学生支援

- ① 国際化推進のための海外留学等の支援を行った。（再掲）
- ② 名古屋工業会賞の贈呈
平成 30 年 3 月 26 日の学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生 19 名に対し、理事長より工業会賞として表彰状並びに記念品を贈呈した。
- ③ 経済的に支援を必要とする新入生 2 名に、名古屋工業大学長出席のもと理事長から名古屋工業会給付型奨学金を授与した。
- ④ 名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。
- ⑤ 挑戦的課外活動活性化のため、ワールドソーラーチャレンジ in オーストラリア、鳥人間コンテスト等に重点的に課外活動奨励金を授与し活動の活性化を図った、また学生個人の活躍により学生将棋選手権で日本一となった学生に理事長表彰を行った。
- ⑥ 工大祭に本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。
- ⑦ 平成 29 年 3 月卒業の終身会員に祝意を表し、記念品を贈った。
- ⑧ 学生の就職支援の一環として、名工大ディナートークおよび OB の企業トップによるセミナーを開催した。
- ⑨ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を行った。
- ⑩ 新入生の保護者に工業会の学生支援等の説明を行うと共に、在学生の保護者に大学情報等の提供のため、会誌を送付した。

2. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 財政基盤の強化のための会員増強活動

① OB 未入会者への勧誘

- 1) OB 入会率向上のため、卒業後経過年数による終身会費割引制度を改訂した。
- 2) 各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。
- 3) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。
- 4) 企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。
- 5) 本年度新規入会者 () は前年度実績

終身会員 62(55)名、 年度会員 20(30)名、 合計 82(85)名

② 新入学生への勧誘

新規入会者

一括納付による終身会員 881(917)名、 6年累計 5,762名

③ 在校生の勧誘

- 1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し、入会勧誘を行った。
 - 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、入会勧誘を行った。
- ④ 平成 29 年度末、対象者 64,258(62,617)名、会員 14,606(13,714)、OB 会員入会率； 22.7(21.9)%
会員の内訳 終身会員 11,788(10,850)名、年度会員 2,818(2,864)名

(2) 活性化活動

① 会員交流および広報活動

- 1) 隔月刊行している会誌「ごきそ」を平成 29 年 1 月号から電子化し、ホームページによる閲覧へ移行した。なお、希望者には引き続き「誌面」による「ごきそ」を送付するとともに発刊時にお知らせメールのサービスを開始した。
- 更に、5・6 月号を全在校生の保護者に送付し、名古屋工業会の広報に資した。
- 2) 会員証による会員優待制度を充実・拡大し、ホームページ等により会員に広報・周知を行った。
- 3) 工業会が保有する卒業生名簿の整備について、卒業生連携室の協力を得て検討を行った。

② 支部活動

- 1) 各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。
- 2) 支部長会議及び支部連絡会を開催し、支部活動の現況と活性化等について検討した。
- 3) 名古屋工業大学 O G による「鶴桜会」に対して支援金を授与した。

③ 単科会との連携

- 1) 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を行った。

④ 講演会の開催

- 1) 会員総会後に特別学術講演会を開催した。

講師： 谷岡 明彦氏 (W45) 東京工業大学名誉教授

演題：『素材は未来を救う ―環境・エネルギーへの挑戦―』

⑤ 記念品の贈呈

- 1) 平成 28 年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受賞者に対し、会員総会で記念品を贈呈した。

長島 徹 (W40) 旭日重光賞

池田 哲夫 瑞宝中綬章 名古屋工業大学名誉教授

小和田正 瑞宝中綬章 名古屋工業大学名誉教授

梅野 正義 (E35) 瑞宝中綬章 名古屋工業大学名誉教授

佐治 學 瑞宝中綬章 名古屋工業大学名誉教授

伊奈 功一 (K46) 藍綬褒章

- 2) 卒業満 70, 60, 50, 40 周年に該当する会員に、記念品を贈呈した。

70 年―昭和 22 年卒 76 名、60 年―昭和 32 年卒 84 名 50 年―昭和 42 年卒 126 名

40 年―昭和 52 年卒 119 名

平成29年度収支決算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	4,412,941	4,400,000	12,941
(1) 財産利子収入	1,987,901	2,000,000	△ 12,099
(2) 会誌広告収入	323,000	320,000	3,000
(3) オフィス賃貸収入	1,440,040	1,300,000	140,040
(4) 駐車場賃貸収入	662,000	770,000	△ 108,000
(5) 寄附金収入	0	10,000	△ 10,000
2) 入会金、会費収入	76,985,000	81,380,000	△ 4,395,000
(1) 入会金収入	108,000	150,000	△ 42,000
(2) 年度会費収入	4,867,000	5,800,000	△ 933,000
(3) 終身会費収入	71,890,000	75,300,000	△ 3,410,000
(4) 賛助会費収入	120,000	130,000	△ 10,000
3) 雑収入	540,513	100,000	440,513
(1) 雑収入	540,513	100,000	440,513
4) 積立預金取崩収入	5,600,536	6,744,000	△ 1,143,464
(1) 減価償却積立預金取崩収入	0	800,000	△ 800,000
(2) 調査研究助成積立預金取崩収入	5,600,536	5,944,000	△ 343,464
5) 前期繰越収支差額	△ 1,924,254	△ 1,924,000	△ 254
(1) 前期繰越収支差額	△ 1,924,254	△ 1,924,000	△ 254
収入の部合計	85,614,736	90,700,000	△ 5,085,264

注1 学部生・大学院生の入会の減 注2 損害保険金(台風による風災被害) 注3 保全費の圧縮

2. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業費	75,122,366	79,400,000	△ 4,277,634
(1) 大学支援事業	43,525,534	46,800,000	△ 3,274,466
ア 教育研究支援	3,432,131	7,300,000	△ 3,867,869
イ 学生支援	38,678,830	38,000,000	678,830
ウ その他支援	1,414,573	1,500,000	△ 85,427
(2) 工業会の充実のための事業	28,903,880	30,000,000	△ 1,096,120
ア 会員増強活動	2,570,203	2,800,000	△ 229,797
イ 広報活動	10,849,679	12,900,000	△ 2,050,321
ウ 支部活動	12,401,398	11,800,000	601,398
エ 会員慶弔	2,789,953	2,300,000	489,953
オ 講演会	292,647	200,000	92,647
(3) 収益事業	2,692,952	2,600,000	92,952
ア オフィス賃貸	2,281,747	2,200,000	81,747
イ 駐車場賃貸	411,205	400,000	11,205
2) 管理費	10,492,370	10,500,000	△ 7,630
(1) 総会経費	2,114,836	2,200,000	△ 85,164
(2) 管理諸経費	8,377,534	8,300,000	77,534
3) 固定資産取得支出	0	800,000	△ 800,000
(1) 固定資産取得支出	0	800,000	△ 800,000
4) 次期繰越収支差額	0	0	0
(1) 次期繰越収支差額	0	0	0
支出の部合計	85,614,736	90,700,000	△ 5,085,264

注1 奨学寄附金の減少 注2 会誌「ごきそ」電子化による通信運搬費、印刷製本費の減少

正味財産増減計算の部

(1) 増加の部

平成30年3月31日

(単位:円)

	勘定科目	決算額	備考
資産の増加	減価償却積立預金増加額	2,372,765	
	退職給与引当預金増加額	400,000	
負債の減少	受入保証金減少額	72,000	
増加額合計		2,844,765	

(2) 減少の部

	勘定科目	決算額	備考
資産の減少	前期繰越収支差額	△ 1,924,254	
	建物償却費	1,537,525	
	建物附属設備償却費	261,986	
	什器備品償却費	573,254	
	調査研究助成積立預金減少額	5,600,536	
	受入保証金減少額	72,000	
負債の増加	退職給与引当金増加額	400,000	
減少額合計		6,521,047	
当期正味財産増減額		△ 3,676,282	
前期繰越正味財産額		308,749,810	
期末正味財産合計額		305,073,528	

貸借対照表

平成30年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	720,977	478,351	242,626
預金	75,267,426	66,485,593	8,781,833
流動資産合計 (A)	75,988,403	66,963,944	9,024,459
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
調査研究助成積立預金	16,933,841	22,534,377	△ 5,600,536
退職給与引当預金	4,195,191	3,795,191	400,000
減価償却積立預金	64,690,648	62,317,883	2,372,765
特定資産合計 (B)	85,819,680	88,647,451	△ 2,827,771
(2) その他固定資産			
土地	26,150,730	26,150,730	0
建物	29,604,051	31,141,576	△ 1,537,525
建物附属設備	1,561,879	1,823,865	△ 261,986
什器備品	1,850,775	2,424,029	△ 573,254
投資有価証券	88,321,641	95,493,846	△ 7,172,205
差入保証金	150,000	150,000	0
その他固定資産合計 (C)	147,639,076	157,184,046	△ 9,544,970
固定資産合計 (D)=(B)+(C)	233,458,756	245,831,497	△ 12,372,741
資産合計 (E)=(A)+(D)	309,447,159	312,795,441	△ 3,348,282
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計	0	0	0
2. 固定負債			
受入保証金	178,440	250,440	△ 72,000
退職給与引当金	4,195,191	3,795,191	400,000
固定負債合計 (G)	4,373,631	4,045,631	328,000
負債合計 (H)	4,373,631	4,045,631	328,000
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計 (I)	305,073,528	308,749,810	△ 3,676,282
負債及び正味財産合計 (J)=(H)+(I)	309,447,159	312,795,441	△ 3,348,282

財 産 目 録

平成30年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
(資産の部)		
I. 流 動 資 産		
1. 現金	720,977	
2. 普通預金(三菱東京UFJ銀行等)	25,066,607	
3. 当座預金(ゆうちょ銀行)	9,078,540	
4. 定期預金(大和ネクスト銀行等)	41,122,279	
流動資産合計	75,988,403	75,988,403
II. 固 定 資 産		
1. 特定資産		
(1)愛知県公債 (野村証券)	16,933,841	
(2)国 債 (野村証券)	68,885,839	
特定資産合計	85,819,680	85,819,680
2. その他の固定資産		
(1)土地 会館用地393.78 m ²	26,150,730	
(2)建物 会館鉄筋5階建延646.88 m ²	29,604,051	
(3)建物附属設備	1,561,879	
(4)什器備品	1,850,775	
(5)国 債 (野村証券)	31,114,161	
(6)大阪府公債 (野村証券)	20,000,000	
(7)愛知県公債 (野村証券)	7,066,159	
(8)なごやか市民債 (野村証券)	30,000,000	
(9)金銭信託(みずほ信託銀行)	141,321	
(10)差入保証金 (セコム・八重洲倶楽部)	150,000	
その他の固定資産合計	147,639,076	147,639,076
固定資産合計	233,458,756	233,458,756
資 産 合 計	309,447,159	309,447,159
(負債の部)		
I. 流 動 負 債		
流動負債	0	
流動負債合計	0	0
II. 固 定 負 債		
受入保証金	178,440	
退職給与引当金	4,195,191	
固定負債合計	4,373,631	4,373,631
負債合計	4,373,631	4,373,631
正味財産		305,073,528

監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 水 嶋 敏 夫 殿

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行、事業報告及び計算関係書類に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況等について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。以上の方法に基づき当該事業年度に係る事業報告書について検討致しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書）について検討致しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告書の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 30 年 4 月 19 日

一般社団法人 名古屋工業会

監事

安藤 正晴



監事

水谷 尚美



公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 水 嶋 敏 夫 殿

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの公益目的支出計画実施報告書に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において公益目的支出計画の実施の状況を調査致しました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検致しました。

2 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

平成 30 年 4 月 19 日

一般社団法人 名古屋工業会

監事

安藤 正晴 

監事

水谷 尚美 

【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【29 年度(平成29年4月1日 から 平成30年3月31日 まで)の概要】

1. 公益目的財産額	345,398,646円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額 ((1)+(2)-(3))	228,504,650円
(1)前事業年度末日の公益目的収支差額	185,116,770円
(2)当該事業年度の公益目的支出の額	43,525,534円
(3)当該事業年度の実施事業収入の額	137,654円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	116,893,996円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 注	

注:詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	(1)計画上の完了見込み	平成33年3月31日
	(2)(1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円
公益目的収支差額	183,276,376円	185,116,770円	229,095,470円	228,504,650円	274,914,564円
公益目的支出の額	45,961,060円	47,482,238円	45,961,060円	43,525,534円	45,961,060円
実施事業収入の額	141,966円	137,654円	141,966円	137,654円	141,966円
公益目的財産残額	162,122,270円	160,281,876円	116,303,176円	116,893,996円	70,484,082円

注:前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。

平成30年度事業計画

同窓会創立103年目の今年度、母校が更に耀きを増す大学として存在するために、定款に定めた事業目的である大学支援事業を的確に実施すると同時に、全学同窓会として更なる発展のための事業として基盤の整備と会員サービスの充実を図る。

具体的には、中長期計画に基づく工業会館改修計画の取りまとめ及び大学と連携してデータベースの整備を図るとともに大学及び工業会の情報提供のためのホームページの充実並びに会員証の利活用内容を拡充し、会員サービスの充実を図る。

1. 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援（国際的に通用する人材の育成・大学の国際化支援）

① 学生の海外研修・留学支援

(2) 教育研究支援（大学の教育研究活動に対する支援）

① 第二部教職科目（職業指導）への実務型教員（非常勤講師）の派遣を継続すると共に、第一部の授業への拡大についての検討も継続

② 教員に対する研究助成等教育研究活動の環境整備に対する支援

③ 定年退職教職員への感謝状と記念品贈呈

(3) 学生支援（学生の人材育成に対する支援）

① 学生の海外研修・留学支援 【再掲】

② 優秀な卒業生に対する「名古屋工業会賞」の贈呈

③ 経済的に支援を必要とする者への給付型奨学金の授与

④ 留学生後援会への援助

⑤ 挑戦的課外活動活性化奨励金の給付

⑥ 「工大祭」の支援

⑦ 就職活動支援（学生会員及び保護者）

1) 就職活動開始前の学生に対する「就労意識の早期醸成」・「企業理解の促進」教育を目的とした「名工大ディナートーク」の開催

2) 就職活動対象学生に対し、就職ガイダンスの一環として「OBトップセミナー」の開催

3) 「卒業生と学生との懇談会」による就職支援

⑧ 在学生及び保護者に対する大学の各種情報提供の支援

(3) その他の支援

① 大学が行う各種の事業及び学生活動に対する支援

1) ホームカミングデー

② 鶴桜会（OG会）の支援

③ 工業会の諸行事の機会を通じた大学基金への寄付に対する協力

④ 同期会、クラブOB会等種々の機会を通じた寄付風土の醸成

2. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 財政基盤の強化のための会員増強活動

① 卒業生への活動

1) 入会率を向上させるため、各種の会合を通じた積極的な入会勧誘の実施

2) 各支部行事の機会における支部単位での積極的な入会勧誘

② 単科会への活動

1) 単科会が主催する「卒業生と学生の懇談会（前述1（2）カ）」における未加入者の入会勧誘

- 2) 単科会会員のうち、名古屋工業会未加入者に対する積極的な入会勧誘
- ③ 在学生への活動
 - 1) 新入生の入会率向上策の成果検証と、さらなる改善策の検討
及び保護者への PR 活動を強化する
 - 2) 未入会者に対する入会勧誘及び卒業時における未入会学生への勧誘
- (2) 活性化活動
 - ① 会員交流および広報活動
 - 1) 会誌「ごきそ」を隔月に発行し、会員に対する大学情報の提供と会員間交流情報の媒体としてより魅力ある会誌の刊行を行う
なお、閲覧はホームページによる。
但し、一定の期間は希望者に郵送を同時に行う。
 - 2) 情報提供の場としてのホームページの充実
 - 3) 学生会員の保護者に対し当会の理念及び事業等の説明会を開催するとともに「OB トップセミナー」への聴講の機会提供
 - 4) 当会の事業に賛同する団体(単科会、同期会、鶴桜会 (OG 会)、クラブ OB 会等)に会友として参加するよう働きかけると共に、「ごきそ」及び「ホームページ」等当会の広報媒体への参加、利用を促進
 - 5) 会員情報・優待制度の充実
 - ・ 会員優待制度の普及・充実
 - ・ 会員証の利用・普及の拡充とともに、有効期限更新時の会員データ更新も可能なようにする。
 - 6) 人材データベース構築のため、卒業生連携室の協力を得て会員名簿を整備
 - ② 支部活動
 - 1) 支部活動は会員サービスのベースであり、特に会員数の増加が見込まれる、名古屋、東京、大阪の各支部活動の充実を図り、継続的運営の整備を図る
 - 2) 全国会員の人的ネットワーク形成の推進のため本部と連携し、全国各支部の事業を充実し会員のコミュニケーションの活性化を促進
 - ③ 単科会との連携
 - 1) 工業会と大学及び単科会との連携等について検討
 - 2) 単科会が主催する「卒業生と学生との懇談会 (前述 1 (2) カ)」を支援
 - ④ 講演会の開催
 - 1) 会員総会後に特別学術講演会を開催
 - ⑤ 記念品の贈呈
 - 1) 叙位叙勲者および国家褒章受賞者に記念品贈呈
 - 2) 卒業満 70、60、50、40 周年に該当する会員に記念品贈呈
 - ⑥ 工業会館の改修・改築を含めた建て替え計画の具体的方法について検討

3. その他の事業

- (1) 中長期計画の策定 (継続)
 - ① 公益目的支出期間後の収支均衡のため、事業フレーム及びロードマップ策定
 - ② 会館改修の年度計画策定、意見聴衆により次期以降の実施計画に繋げる
- (2) 他国立大学同窓会との情報交換及び連携を図り、活動の充実へ繋ぐ
- (3) 付随的な事業として、オフィス及び駐車場の賃貸

以 上

平成30年度収支予算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日)

1. 収入の部

(単位:千円)

勘 定 科 目	H30年度予算(A)	H29年度決算(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	4,410	4,413	△ 3
(1) 財産利子収入	1,987	1,988	△ 1
(2) 会誌広告収入	323	323	0
(3) オフィス賃貸収入	1,440	1,440	0
(4) 駐車場賃貸収入	660	662	△ 2
(5) 寄附金収入	0	0	0
2) 入会金, 会費収入	76,920	76,985	△ 65
(1) 入会金収入	100	108	△ 8
(2) 年度会費収入	4,800	4,867	△ 67
(3) 終身会費収入	71,900	71,890	10
(4) 賛助会費収入	120	120	0
3) 雑収入	100	541	△ 441
(1) 雑収入	100	541	△ 441
4) 積立預金取崩収入	4,600	5,600	△ 1,000
(1) 減価償却積立預金取崩収入	0	0	0
(2) 調査研究助成積立預金取崩収入	4,600	5,600	△ 1,000
5) 前期繰越収支差額	0	△ 1,924	1,924
(1) 前期繰越収支差額	0	△ 1,924	1,924
収入の部合計	86,030	85,615	415

注1

※ 平成30年度借入限度額及び債務負担額についての該当事項はありません。

注1 損害保険金（台風による風災被害）

2. 支出の部

(単位:千円)

勘 定 科 目	H30年度予算(A)	H29年度決算(B)	増減(A-B)
1) 事業費	75,630	75,123	507
(1) 大学支援事業	43,560	43,526	34
ア 教育研究支援	3,440	3,432	8
イ 学生支援	38,700	38,679	21
ウ その他支援	1,420	1,415	5
(2) 工業会の充実のための事業	29,370	28,904	466
ア 会員増強活動	2,570	2,570	0
イ 広報活動	11,000	10,850	150
ウ 支部活動	12,710	12,401	309
エ 会員慶弔	2,800	2,790	10
オ 講演会	290	293	△ 3
(3) 収益事業	2,700	2,693	7
ア オフィス賃貸	2,290	2,282	8
イ 駐車場賃貸	410	411	△ 1
2) 管理費	10,400	10,492	△ 92
(1) 総会経費	2,000	2,115	△ 115
(2) 管理諸経費	8,400	8,377	23
3) 固定資産取得支出	0	0	0
(1) 固定資産取得支出	0	0	0
4) 次期繰越収支差額	0	0	0
(1) 次期繰越収支差額	0	0	0
支出の部合計	86,030	85,615	415